学校創立143周年

百年松

阿木名小中学校便り　令和４年６月２４日発行

◇ 校訓「かしこく　やさしく　たくましく」

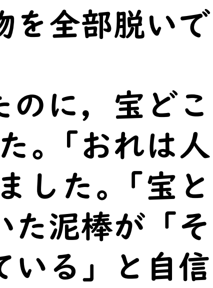
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども

～花いっぱい，元気いっぱい，笑顔あふれる阿木名っ子～

阿木名小中学校

「良識・良心」という宝

校　長　　井上　泉

　中学校では，2・3年生が修学旅行へ行きました。新型感染症対策を行いながら，福岡・長崎・熊本と新しい文化に触れたり，歴史探訪をしたり，また戦争について自分で歩き学ぶなど，それぞれの場所でしっかり学習することができました。家を離れ，友だちと寝食を共にする時間は，人生の中でも特に思い出に残るものと思います。無事実施できましたことは，皆様のご協力あってこそと改めて感謝申し上げます。

　さて，今回は人間だれもがが持っている大切な「心」のお話です。
　人間はみな目には見えない「良識・良心」という宝を持っているので，間違ったことや，恥ずかしいことはできないものです。（ここでいう間違ったこととは，人間として間違ったことをさします。）
　あるお話です。昔，近江の国に立派な学者いました。ある晩，暗い夜道を一人で帰っていると，泥棒に出会いました。その泥棒が「宝を持っているか！」と聞きました。学者が「あぁ持っているとも」と答えました。「ならばその宝か金を出せ」と迫ってきました。その学者は，気前よく財布ごと泥棒に渡しました。受け取った泥棒が中身を確認すると，宝どころかお金さえほとんど入っていません。怒った泥棒が，「こんなことで許すと思うな。着ぐるみ全部置いてゆけ！」とどなりました。その学者は，黙ってはかまを脱ぎ，帯をとき，着物を全部脱いでふんどし１枚で歩き出しました。
　あまりの潔さに泥棒が，「おまえは変わったやつだ，宝を持っていると言ったのに，宝どころか財布にもお金もほとんど入っていない。いったい何者なのか」と尋ねました。「おれは人間だ」と学者が答えました。「それならどこに宝を持っている」と泥棒が尋ねました。「宝というのは，良識・良心といって，だれもが幸せになる宝だ」という学者に，驚いた泥棒が「そんな宝がどこにあるのだ」とまたもや尋ねました。すると「人間は誰しも持っている」と自信ありげに学者が言いました。「このおれも持っているのか」と泥棒は不安げです。「あぁ持っているとも」と笑いながら学者が答えました。「どこにある？」と泥棒が聞くと，学者は大きな声で「見たいなら着物をすべて脱げ」と言いました。泥棒は渋々ふんどし一つになりました。「そのふんどしも取れ」とさらに大きな声で言いました。すると「そんな馬鹿なことができるか」と泥棒が怒りました。学者は「なぜそれがとれないのだ。のら犬やのら猫はふんどしをつけなくても歩いている。それを脱げないところが人間とのら犬やのら猫と違う立派な宝だ。その立派な宝を持ちながら，のら犬やのら猫と同じように人のものを平気で盗むとは･･･。」と哀しい目をしました。泥棒は「そうか･･･」と納得し，そののち心を入れ替え，その学者の弟子になったというお話です。
　自分でした行為を恥ずかしいと思える良識や良心があるからこそ，人間として，してはいけないことがわかっているのです。でも勉強や宿題に追われたり，友だち関係で悩んだり不安やあせりでイライラして，つい，してはならないことをしてしまったり，ことばがきつくなったり，ルール違反をしたりすることもあります。大人でも，仕事で上手くいかなかったりイライラしたりすると，つい間違ったり行き過ぎた行為をすることがあります。その時こそ「良識・良心」という宝を持っていることを思い出してほしいと思います。立ち止まり気付くことができれば，その宝はより輝くと思います。